

- 物品の下積みなどにより傷や変形が起こらないようにしてください。
- ベルト・ロープに泥・埃・油・塗料が付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってください。
- フック・バックルなどの金具は付着した砂・土・水などを拭き取り、可動部に時々注油してください。
- 高温（50℃以上）となる場所に長時間保管しないでください。

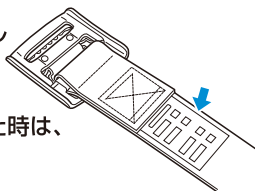
10. 交換の目安（耐用期間）

使用方によって異なりますが、交換の目安としては、ワークポジショニング用ロープは使用開始年月より2年、ワークポジショニング用胴当てベルト・胴ベルトは3年くらいをめどとしてください。ただし、耐用期間内であっても「7.点検と廃棄の基準」にしたがって点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで、新品と取替えてください。

●使用を開始した年月を胴ベルトのバックル

取付部に縫い付けてあるラベルに必ず記入してください（右図参照）。

●ワークポジショニング用ロープを取替えた時は、その年月をラベルに記入してください。



11. 性能

項目	「ワークポジショニング用器具の規格」
胴ベルト	15.0kN 以上
ロープ	19.0kN 以上
フック	11.5kN 以上
伸縮調節器	8.0kN 以上
3way環・D環	11.5kN 以上
環類取付け部	11.5kN 以上
バックルによる連結部	8.0kN 以上

製品に関するお問い合わせは

✉ <https://jpn.tajimatool.co.jp/inquiry>

TEL 0120-125577



受付時間：
月曜日～金曜日
9:00～17:00
(12:00～13:00
祝日・当社指定休日を除く)

株式会社TJMデザイン

本社/〒174-8503 東京都板橋区小豆沢3-4-3
<https://jpn.tajimatool.co.jp>

SZ22110000

保管用 第3版
56361

ご使用前に必ずお読みください。

Tajima

取扱説明書

ワークポジショニング用器具

このたびは、《ワークポジショニング用器具》をお買い上げいただきありがとうございます。本製品は日本産業規格「JIS T 8165：2018 墜落制止用器具」を基に製造したものであり、通信線工事・配電線工事・送電線工事等の高所作業に用いる製品です。

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、ご使用ください。⚠危険 ⚠警告 ⚠注意の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。この取扱説明書は、いつでも活用できるよう大切に保管してください。

取扱説明書を紛失された場合は、弊社 HP にも掲載しておりますので、プリントアウトして保管してください。

HP アドレス：<https://jpn.tajimatool.co.jp>

(HP トップページにある「取扱説明書」のボタンをクリックしてください)

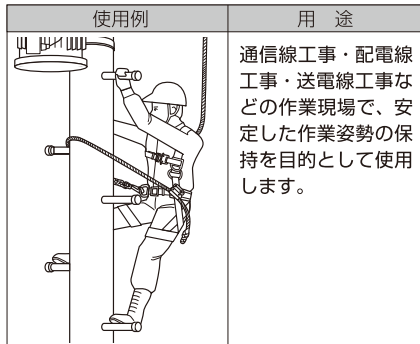
●目次

	ページ		ページ
1. 用途	2	5. ワークポジショニング用ロープ	12
2. 構造および各部名称	3	5-1. ワークポジショニング用ロープ 各部名称	12
3. 胴ベルト	4	5-2. 伸縮調節器を3way環に取付ける方法	12
3-1. 胴ベルト 各部名称	4	5-3. フックの操作方法および掛け方	12
3-2. バックルに胴ベルトを通す方法	4	5-4. ワークポジショニング用ロープの使用方法	12
3-3. バックルの使用方法	5	5-5. 伸縮調節器の操作方法	13
4. ワークポジショニング用胴当てベルト	6	6. 安全ブロック、胴ベルト型ランヤードを3way環に取付ける方法	14
4-1. ワークポジショニング用胴当てベルト 各部名称	6	6-1. 安全ブロックの取付け	14
4-2. フルハーネス(ZA/ZS/GS)・サスペンダーの取付け方法	6	6-2. 胴ベルト型ランヤードの取付け	14
4-3. 胴ベルトの取付け方法	9	7. 必ずお守りください(使用上の注意事項)	15
4-4. ワークポジショニング用胴当てベルトの装着位置	11	8. 点検と廃棄の基準	21
		9. 保管と手入れのしかた	23
		10. 交換の目安(耐用期間)	24
		11. 性能	24

1. 用途

本製品は、U字つり*状態でロープの張力によって、安定した作業姿勢を保持することを目的として用いるワークポジショニング用器具です。

高所作業における墜落を制止するために、原則フルハーネス型の墜落制止用器具を併用してください。なお、墜落時に作業者が地面に到達するおそれのある場合は、胴ベルト型ランヤード**を接続することで、墜落制止用器具としてご使用いただけます。



ワークポジショニング用器具単体では、墜落制止用としては使用できません。

ワークポジショニング用胴当てベルトに付属している胴ベルトを墜落制止用としてお使いになる場合は、「胴ベルト型」と表示のあるランヤードを接続してください。ただし、胴ベルト型の墜落制止用器具が使用できるのは、高さ6.75m以下で、墜落時に作業者が地面に到達するおそれのある場合のみです。

本製品には使用可能質量*の規定はありません。

併用する墜落制止用器具の使用可能質量以下でご使用ください。

※使用可能質量:体重と装着する全ての物の合計質量

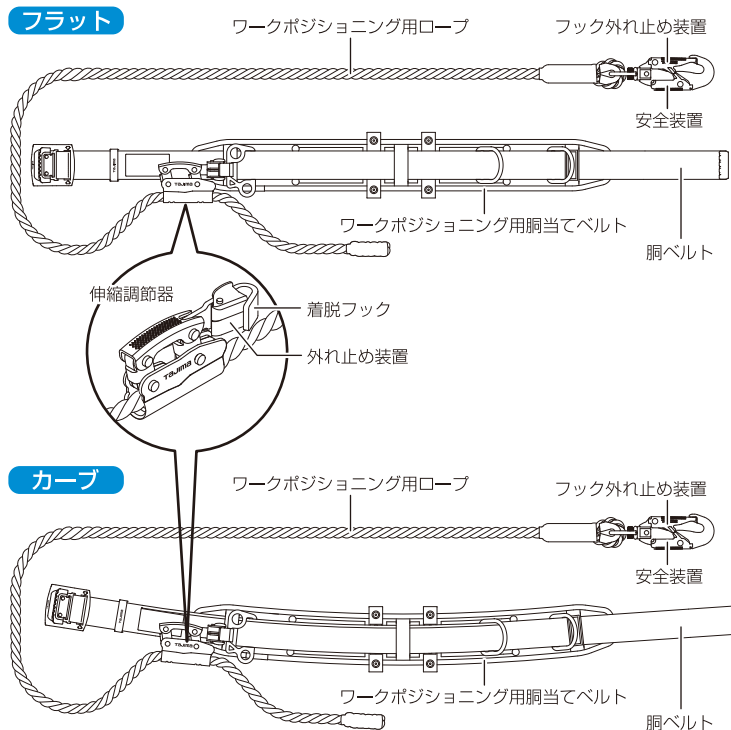
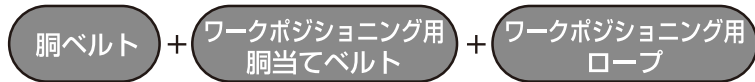
この取扱説明書は、ワークポジショニング作業時の使用方法について記載していますので、併用する墜落制止用器具の取扱説明書をあわせてお読みください。また、より適切な墜落制止用器具の選定・使用のため、厚生労働省通達「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン(平成30年6月22日付け基発0622第2号)」の併読をお奨めします。

* U字つり:ワークポジショニング用ロープを構造物にU字状に回し、ワークポジショニング用ロープに身体を預けた作業状態をいいます。

**ランヤード:フルハーネス(または胴ベルト)と取付設備とを接続する墜落制止用のロープまたはストラップに、フックとショックアブソーバを備えたものをいいます。

2. 構造および各部名称

本製品はワークポジショニング用器具です。構造は、バックルの付いた胴ベルトと左右に環を縫い付けたワークポジショニング用胴当てベルト、およびロープの長さを調節できる伸縮調節器を備えたワークポジショニング用ロープで構成されています。

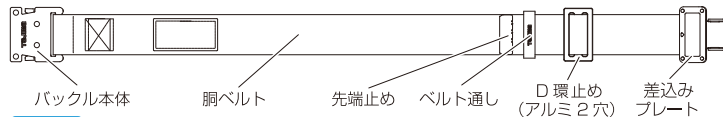


3. 胸ベルト

3-1. 胸ベルト 各部名称

●ワンタッチバックル

フラット

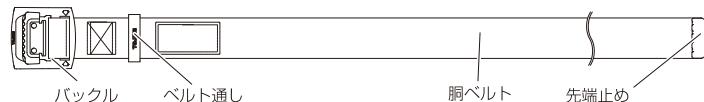


カーブ



●ワンフィンガーバックル

フラット



カーブ



3-2. バックルに胸ベルトを通す方法

ワンタッチバックルベルト仕様

1. 差込みプレート裏側の刻印 にベルト先端を通してください。

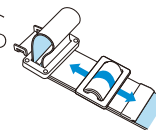
※ベルトの表 / 裏に注意してください。



2. 差込みプレート表側の刻印 にベルト先端を通してください。



3. D環止め (アルミ2穴) にベルト先端を通し、胸ベルトが腰骨の位置でしっかり締まる長さに調節してください。

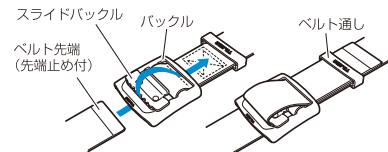


4. 余ったベルトはベルト通しに必ず通してください。



ワンフィンガーバックルベルト仕様

スライドバックル部分を開き、バックルの裏側の刻印 の所にベルト先端部を通し、次に表側の に入れてください。余ったベルトはベルト通しに必ず通してください。

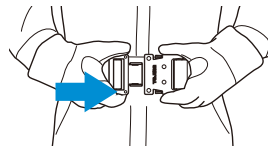


ベルトを外すときは、必ずスライドバックルを開いて外してください。閉じたままの状態を外すと、スライドバックル部分とベルトの先端止めが引っ掛かり、破損の原因となります。

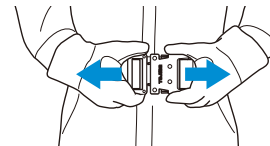
3-3. バックルの使用方法

ワンタッチバックルベルト仕様

1. 連結するとき

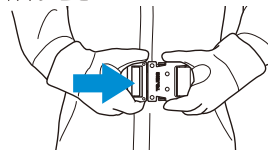


- ①片方の手でバックル本体を保持し、差込みプレートを本体の奥に当てるまで差し込みます。

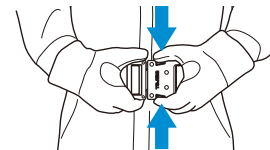


- ②両方のロック解除レバーがロックの位置にあることを確認し、さらにベルトを左右に引き、バックルがロックされていることを確認してください。

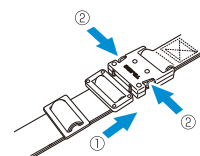
2. 外すとき



- ①差込みプレートをバックル本体側に押し込みます。



- ②同時にロック解除レバーを押さえると差込みプレートが外れます。



4. ワークポジショニング用胴当てベルト

4-1. ワークポジショニング用胴当てベルト 各部名称

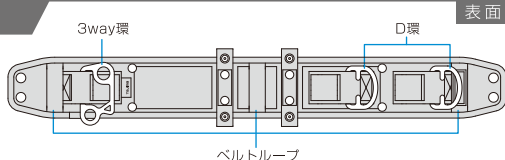
WFX650/750/850

参考ウエストサイズ※

WFX650 約80cmまで

WFX750 約100cmまで

WFX850 約120cmまで



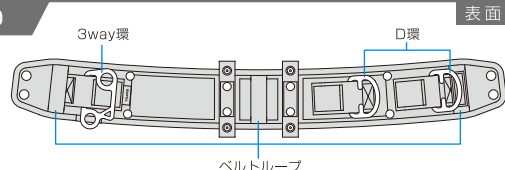
WCX650/750/850

参考ウエストサイズ※

WCX650 約80cmまで

WCX750 約100cmまで

WCX850 約120cmまで



※参考ウエストサイズはあくまでも目安です。着用する作業服の厚さなどにより異なります。

D環は、650サイズは1個、750・850サイズには2個ついています。

4-2. フルハーネス(ZA/ZS/GS)・サスペンダーの取付け方法

△注意 **SEG** マークの無いフルハーネス・サスペンダーは取付けられません。
ご使用前に必ず組合わせるフルハーネス・サスペンダーの取扱説明書もあわせてご確認ください、正しくお使いください。※3

胴当てベルト	対応表	・フルハーネス(ZA/ZS/GS) ・サスペンダー		
		S	M	L
	WFX650・WCX650	○	○	※2
	WFX750・WCX750	○	○	○
	WFX850・WCX850	※1	○	○

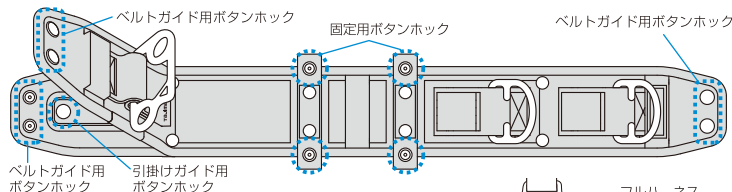
※1. P10を参照にフルハーネス・サスペンダーの固定用ループに胴ベルトを通し固定。(引掛けガイド内側)

※2. P10を参照にフルハーネス・サスペンダーの固定用ループに胴ベルトを通し固定。(引掛けガイド外側)フルハーネス・サスペンダーと胴当てベルトの組合わせは同サイズのものをおすすめします。

※3. フルハーネス (HA/HS) は胴当てベルトを取付けません。

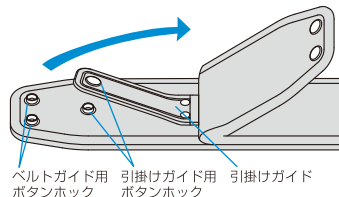
フルハーネス (ZA/ZS/GS)

〈フルハーネスとの接合使用部〉

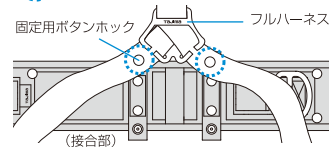
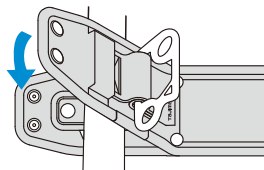


①ワークポジショニング用胴当てベルト中央上側の固定用ボタンホックとフルハーネスの接合部の固定用ボタンホックの位置を合わせてしっかりはまるように奥まで押し込み、留めてください。

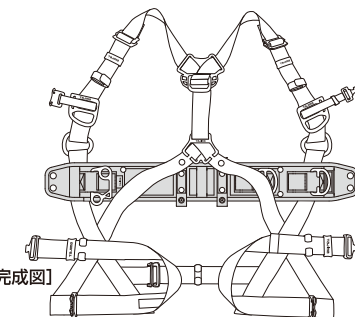
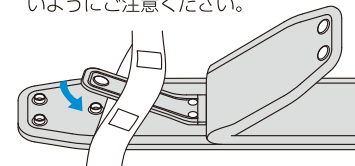
②ベルトガイド用ボタンホックを外し、ベルトガイドを開きます。露出した引掛けガイド用ボタンホックを外します。



④ベルトガイド用ボタンホックを留めて、ベルトガイドを固定します。



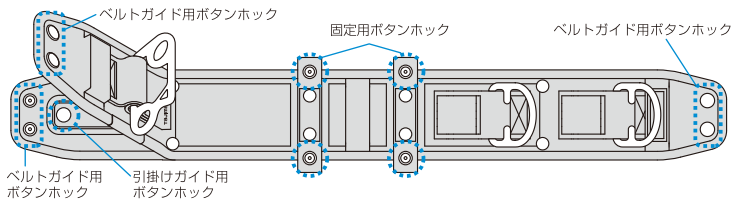
③引掛けガイドに図のようにフルハーネスの固定用ループ部を通します。その後、引掛けガイド用ボタンホックを閉じて固定します。その際ベルトがよじれないようにご注意ください。



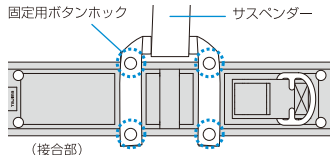
[取付け完成図]

サスペンダー

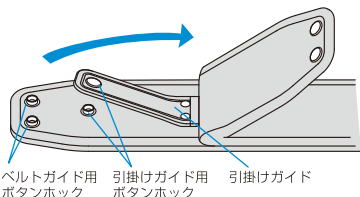
＜サスペンダーとの接合使用部＞



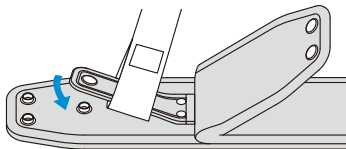
①ワークポジショニング用胴当てでベルト中央の固定用ボタンホックとサスペンダーの接合部の固定用ボタンホックの位置を合わせて、しっかりとまるように奥まで押し込んで留めてください。



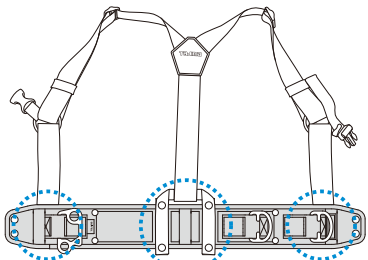
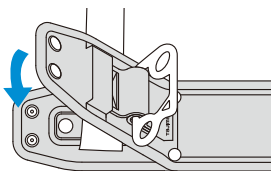
②ベルトガイド用ボタンホックを外し、ベルトガイドを開きます。露出した引掛けガイド用ボタンホックを外します。



③引掛けガイドに図のようにサスペンダーの固定用ループ部を通します。その後、引掛けガイド用ボタンホックを閉じて固定します。その際ベルトがよじれないようにご注意ください。



④ベルトガイド用ボタンホックを留めて、ベルトガイドを固定します。



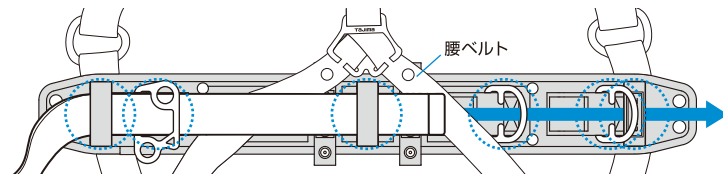
【取付け完成図】

4-3. 胴ベルトの取付け方法

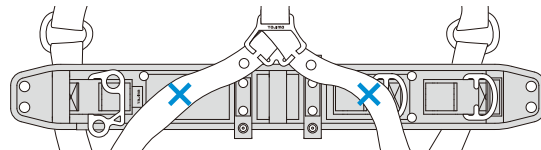
※イラストはWFXシリーズです。WCXシリーズも同じ取付け方法です。
D環は、650サイズは1個、750・850サイズには2個ついています。

4-2の方法でフルハーネス、サスペンダーを取付けた後に、図のように胴ベルトをワークポジショニング用胴当てでベルトの環類とベルトループに通します。

フルハーネス (ZA/ZS/GS)

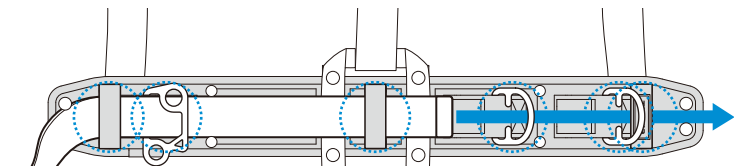


フルハーネスの腰ベルトが環類内側にくるように取付けてください。
環類・環類横のベルトループにも忘れずにベルトを通してください。

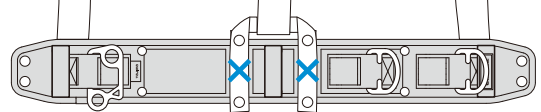


△注意 フルハーネスの腰ベルトの下に胴ベルトは通さないでください。

サスペンダー



環類・環類横のベルトループにも忘れずにベルトを通してください。



△注意 サスペンダーの固定用ループに胴ベルトは通さないでください。

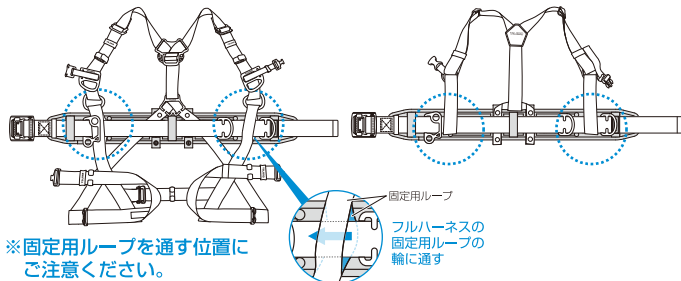
△注意 下記製品の組み合わせの場合は、ワークポジショニング用胴当てベルトの「引掛けガイド」は使用せずに、胴ベルトをそれぞれの固定用ループに直接通してください。

〈対応表〉※1の組み合わせの場合

WFX850・WCX850

フルハーネス 〈Sサイズ〉

サスペンダー 〈Sサイズ〉

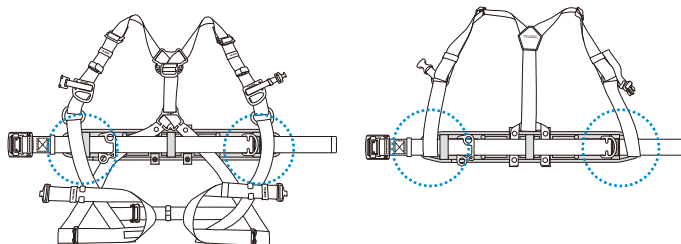


〈対応表〉※2の組み合わせの場合

WFX650・WCX650

フルハーネス 〈Lサイズ〉

サスペンダー 〈Lサイズ〉

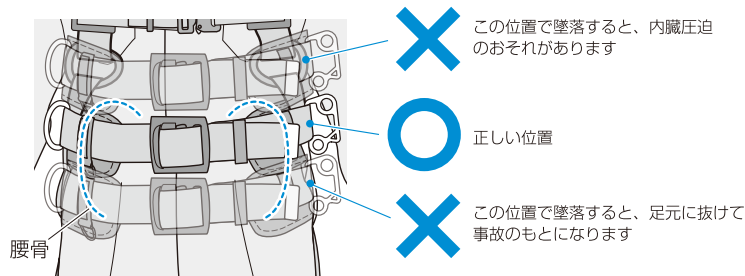


4-4. ワークポジショニング用胴当てベルトの装着位置

ワークポジショニング用胴当てベルトに装着した胴ベルトは腰骨の位置でしっかり締めてください。

ベルトはできるだけ腰骨の近くで墜落制止時に足部の方へ抜けない位置で、胸部へずれないように確実に装着してください。

腰骨の位置で身体にフィットするようにしっかり締めてください。



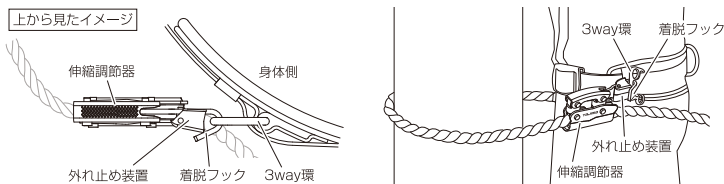
5. ワークポジショニング用ロープ

5-1. ワークポジショニング用ロープ 各部名称



5-2. 伸縮調節器を3way環に取付ける方法

伸縮調節器の着脱フック開口部が身体の外側にくるように、ワークポジショニング用胴当てベルトの3way環に取付けてください。



5-3. フックの操作方法および掛け方

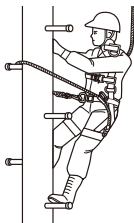
●フックの操作方法

フックは外れ止め装置と安全装置を同時に握ってください。開口します。



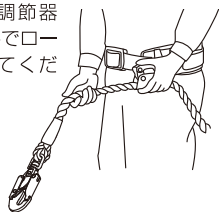
●フックの掛け方

ロープは使用中滑り落ちないように腰より高い位置に掛け、フックをワークポジショニング用胴当てベルトのD環に掛けてください。

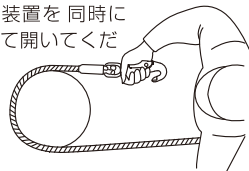


5-4. ワークポジショニング用ロープの使用方法

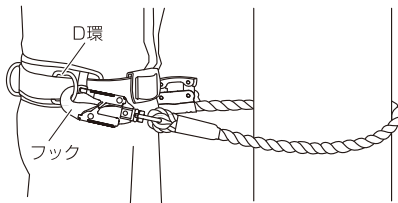
①左手で伸縮調節器を握り、右手でロープを引出してください。



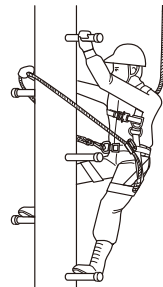
②ロープを構造物等の後側にまわして、ロープ先端部のフックを、外れ止め装置と安全装置を同時に押さえて開いてください。



③ロープによじれないことを確認した上で、フックを開口部が内側（身体側）になるようにして、ワークポジショニング用胴当てベルトのD環に掛ける。その後ベルトの端や作業服等が巻き込まれていないか、外れ止め装置および安全装置が完全に閉まっているかを確認してください。



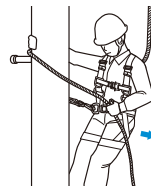
④U字つり状態で昇降するときは、ロープを昇降上必要最小限の長さに調節して、ロープが滑り落ちないように絶えずステップボルト等の突起物の上にロープを掛けてください。



5-5. 伸縮調節器の操作方法

●ワークポジショニング用ロープを長くする方法

まず電柱などの構造物に手を添え体を支えた後、伸縮調節器を操作して押爪のロープへの噛み込みを解除しながら腰を引き（構造物より離れ）、作業上必要最小限の長さになった位置で操作を止めるとロープの長さが固定されます。その後ゆっくりと全体重をかけてください。



●ワークポジショニング用ロープを短くする方法

構造物に手を添え体を支え、ロープの端部を握り、腰を構造物の方へ寄せながら後ろへ引いてください。伸縮調節器の操作をすることなくロープの長さが縮まります。希望の長さになったらゆっくりと全体重をかけてください。

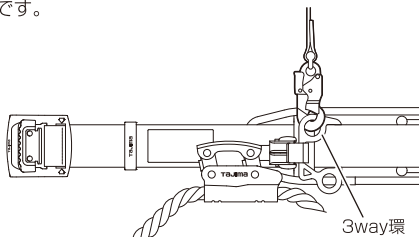


▲注意 伸縮調節器は作業時に加わる体重で内部の押爪がロープを噛み、任意の位置で停止します。押爪に体重が加わらないような使用方法、あるいは押爪を浮かすような使用方法はしないでください。

6. 安全ブロック、胴ベルト型ランヤードを 3way 環に 取付ける方法

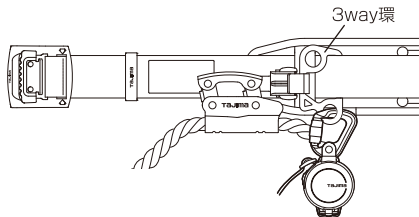
6-1. 安全ブロックの取付け

ワークポジショニング用胴当てベルトの 3way 環に、安全ブロックのフックの取付けが可能です。



6-2. 胴ベルト型ランヤードの取付け

ワークポジショニング用胴当てベルトの3way環に、胴ベルト型ランヤードの着脱フック/着脱カラビナの取付けが可能です。



※胴ベルト型の墜落制止用器具が使用できるのは、高さ6.75m以下で、墜落時に作業者が地面に到達するおそれのある場合のみです。

7. 必ずお守りください（使用上の注意事項）

危険 誤った使い方をしますと、墜落などの危険性がありますので、絶対にやめてください。

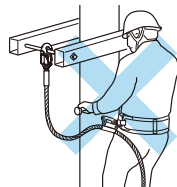
- ワークポジショニング用ロープは墜落制止用器具、および補助ロープとしては使用できません。必ず墜落制止用器具を併用してください。

ワークポジショニング用ロープは、U字つり状態でロープの張力によって安定した作業姿勢を保持するためのワークポジショニング用器具です。

墜落制止用器具ではありません。

また、構造上 補助ロープとして使用できません。

ワークポジショニング用ロープを1本つり状態で落下した場合、重大事故になる危険性がありますので、1本つりで使用しないでください。



- ワークポジショニング用胴当てベルトに付属している胴ベルトを墜落制止用器具として使用する場合は胴ベルト型ランヤードを接続してください。

作業時には、墜落制止用として、フルハーネス型の墜落制止用器具を併用していただくことが原則ですが、フルハーネス型の使用では、墜落制止時に作業者が地面などに衝突するおそれのある場合は、墜落制止用器具の胴ベルト型ランヤードを接続して使用することができます。

ランヤードのフックは腰の高さよりも高い位置の構造物に取付けてご使用ください。

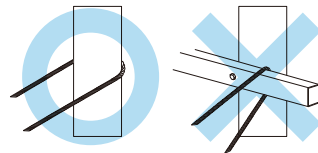
胴ベルト型の墜落制止用器具を使用できるのは、高さ 6.75m 以下で、墜落時に作業者が地面に到達するおそれのある場合のみです。

その他の使用上の注意事項は、接続するランヤードの取扱説明書を必ずお読みください。

- ワークポジショニング用ロープは堅固な構造物に回し掛けしてください。

弱い構造物に取付けると、体重を傾けたときに、強度不足によって構造物が破損し、安定した作業姿勢を保持できないおそれがあります。

また、端が開放状態の構造物では、ワークポジショニング用ロープが移動し、抜け落ちるおそれがあります。ワークポジショニング用ロープは、構造物から抜けたり破損したりするおそれなく、ロープに体重を預けても十分耐える堅固なものに取付けてください。

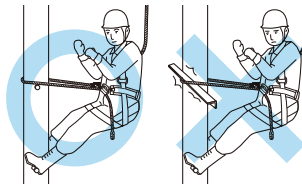


- ワークポジショニング用ロープが鋭い角に触れないようにしてください。

鋭い角でロープが切断するおそれがあります。

ロープが鋭い角に触れるおそれのある所では使用しないでください。

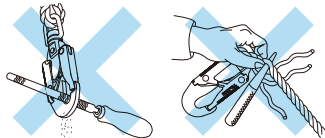
鋭い角のある構造物を避けてワークポジショニング用ロープを掛けるか、または構造物に丈夫な布などの保護材を巻いて養生してご使用ください。



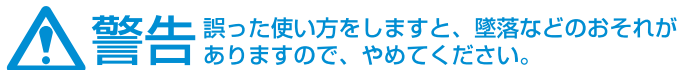
●改造や部品の取外し等の加工は絶対に行わないでください。

分解・改造することはワークポジショニング用器具としての性能を十分に発揮できないばかりか、危険な状況の発生が考えられますので、絶対にやめください。

また、絶対にご自分でさつま編加工をしないでください。



●ワークポジショニング用胴当てベルトに胴ベルトを取付ける際は必ず全てのベルトループ、環類を通過させてください。



●溶接の火花、強い酸やアルカリ、油、その他高温高熱の物体や化学薬品類が製品に付着しないようにしてください。

●ワークポジショニング用器具は-10℃～50℃の範囲で使用してください。

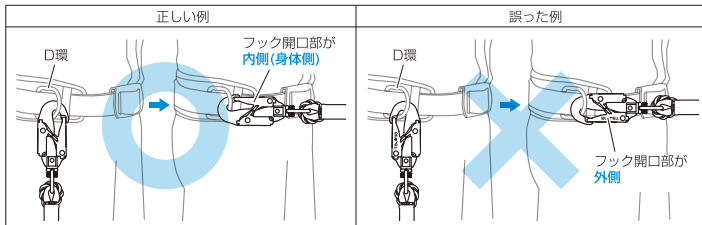
ワークポジショニング用器具の使用温度が、-10℃～50℃以内であっても水に濡れて凍結すると、フックの外れ止め装置と安全装置、バックルのスライド部、伸縮調節器が作動しないおそれがあります。操作する上で異常がないか確認しながらお使いください。

●ワークポジショニング用ロープは滑り落ちない所に回し掛けてください。

ロープは腰より高い位置で、滑り落ちない所に掛けてください。

●フックは正しくワークポジショニング用胴当てベルトのD環に掛けてください。

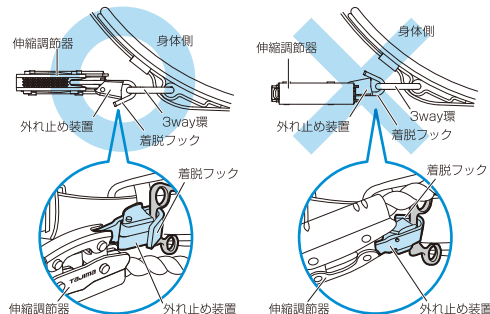
フックは、こじられたり、外れ止め装置および安全装置がベルトや構造物などで作動方向に押されないように掛けてください。（フックの形状と掛け方の一例を示します）誤った掛け方をすると外れ止め装置や安全装置がねじられ、または押さえられてフックがD環から外れ、事故のもとになります。



●伸縮調節器は正しく3way環に掛けてください。

伸縮調節器の着脱フックの外れ止め装置の作動を確認するとともに、作業服等が巻込まれていないことを目視で確認してください。

着脱フックの開口部を内側（身体側）にすると、ベルトの先端金具や作業服が外れ止め装置に巻き込まれて開口し、伸縮調節器が3way環から外れて事故のもとになります。

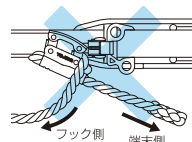


●フックや伸縮調節器に工具袋や金具が接触しないようにしてください。

フックや伸縮調節器に工具袋や金具が接触すると、フックの外れ止め装置が押されて開口したり、伸縮調節器の押爪を解除するおそれがあります。

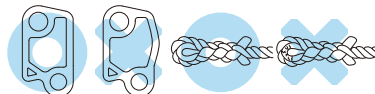
●ロープが伸縮調節器に絡まないようにしてください。

ワークポジショニング用ロープが伸縮調節器に絡まった状態で使用されますと、伸縮調節器の押爪の動きを阻害するおそれがあります。



●一度でも大きな荷重が加わったものは廃棄してください。

右図のような変形があれば、ワークポジショニング用器具全体を廃棄してください。外見上の変形がなくても、一度でも大きな荷重が加わったものは再び落下すると衝撃荷重が大きくなり、安全限界を超えて人体に損傷を及ぼすおそれがあります。

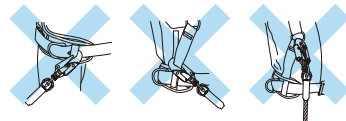


●フックはワークポジショニング用胴当てベルトのD環に目視で掛けてください。

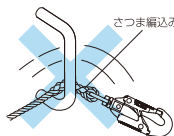
D環に作業服などがかぶさっているおそれがあります。

●U字つり状態ではワークポジショニング用胴当てベルトのD環以外のところにワークポジショニング用ロープのフックを掛けしないでください。

フックを誤ってD環以外のものに掛けないようにするために、D環またはその付近のベルトには、フックを掛けられる器具をつけないでください。



- さつま編込部に屈曲作用が加わるような使い方はしないでください。



さつま編込部やさつま編込部の際に過度の屈曲が繰り返されると、さつま編込部に型崩れや緩みが生じる場合があります。

さつま編込部に「屈曲としごき」が加わった場合は、「点検と廃棄の基準」に説明しているロープのさつま編込部の乱れ・緩み・抜けの状態を十分に点検してください。

- 雨の日は感電に注意してください。

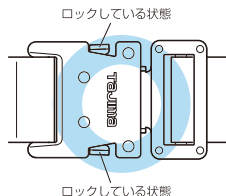
- ワークポジショニング用器具はU字つり状態でロープ張力によって安定した作業姿勢を保持するための製品ですので他の用途には使用しないでください。

- 差込みプレートが確実にロックしていることを確認してください。

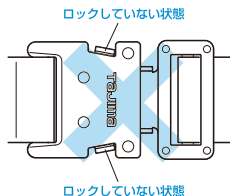
ワンタッチバックル仕様

差込みプレートは両方のロック解除レバーの位置が下図に示す状態になるまで（「カチッ」と音が出るまで）差し込んでください。

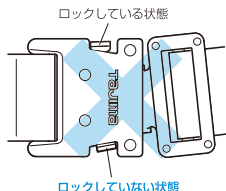
〈両方ロックしている状態〉



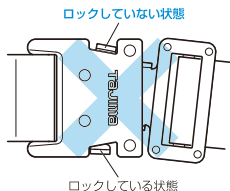
〈両方ロックしていない状態〉



〈上だけロックしている状態〉



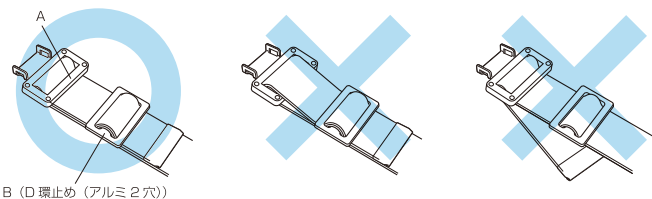
〈下だけロックしている状態〉



差込みプレートを確実にロックしていないと、墜落制止時に差込みプレートが本体から抜けて重大な事故になります。特に片方だけロックしている状態にならないようご注意ください。

- ベルトを本体または差込みプレートの長さ調整金具とベルト通しに正しく通してください。**ワンタッチバックル仕様**

ベルトを差込みプレートの A の部分と B（D 環止め（アルミ 2 穴））に通し、先端部が外側になるように正しく通してください。

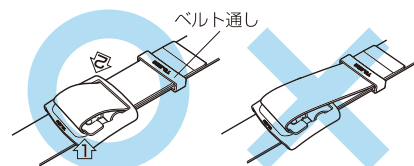


ベルトの通し方を間違えると、墜落制止時にベルトがバックルから滑り抜けて、事故のもとになります。

- 胴ベルトをバックルに正しく通してください。

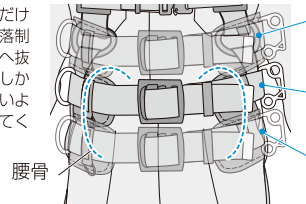
ワンフィンガーバックル仕様

ベルトを矢印①から④の順に正しく通し、最後にベルト通しに通してください。通し方を誤ると、墜落制止時にベルトがバックルより滑り抜けて事故のもとになります。



- 胴ベルトは腰骨のところに締めてください。

ベルトはできるだけ腰骨の近くで墜落制止時に足部の方へ抜けない位置で、しかも胸部へずれないよう確実に装着してください。



この位置で墜落すると、内臓圧迫のおそれがあります

正しい位置

この位置で墜落すると、足元に抜けて事故のもとになります

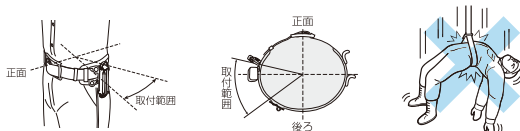
- 墜落制止用器具は-10℃～50℃の範囲で使ってください

ベルト・ランヤード・ショックアブソーバが火気または高温部に触れないようにしてください。なお、墜落制止用器具の使用温度が-10℃～50℃以内であっても、水に濡れて凍結すると、フックの外れ止め装置と安全装置、バックルのスライド部、巻取器のロック装置が作動しないおそれがあります。操作する上で異常がないか確認しながらお使いください。

注意 安全にお使いいただくためにお守りください。

- 胴ベルト型ランヤードを装着する場合は、ランヤードの接続環を直接胴ベルトに通して、下記の取付範囲に固定してご使用ください。

接続環は身体の横か、ななめ後ろに位置するように装着してください。



接続環を前にすると墜落制止時に背骨に負担がかかり、人体が損傷する場合があります。

- 腰袋などに隠れている部分も点検してください。

腰袋などで隠れている部分のベルトが摩耗する場合があります。

点検の際には、腰袋などで隠れている部分もベルトが摩耗していないか、確認してください。

- 本品は腰に装着した時に、左側に3way環、右側にD環が来るように装着してください。

上下逆になると腰にフィットせず、安全に使用していただくことができません。

- ワークポジショニング用器具は屋外に放置しないでください。

ベルト・ロープは合成繊維製のため紫外線によっても強度が低下します。

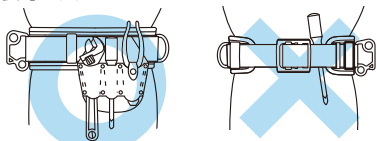
- ワークポジショニング用胴当てベルト・ワークポジショニング用ロープ、フルハーネス、胴ベルト・フルハーネス型（胴ベルト型）ランヤードは同一業者・同一形式のものを組合わせてください。

異なるメーカーのものを組合わせて使用すると必要強度や機能が得られない場合があります。

- 使用前には伸縮調節器に異常がないか確認してください。

使用前には地上で電柱等の構造物にワークポジショニング用ロープを U 字掛けして体重をかけ、伸縮調節器に滑りがないか確認してください。

- 墜落制止時に身体に傷をつけるおそれがありますので、工具類はペンチケース・腰袋等に入れてください。



- 丁寧に扱ってください。

ロープを引くと、フックに砂などの異物が付着したりします。使用しない時はロープを首に掛けるか、3way環にフックを掛けてロープを腰に吊り下げてください。



8. 点検と廃棄の基準

- 一度でも大きな荷重が加わったものは使用せず、廃棄してください。

ワークポジショニング用器具は消耗品であり、使用しているうちに摩耗などにより性能が低下します。従って点検において 1 項目でも廃棄基準に達しているものは、機能不良や強度不足になりますので新品と取替えてください。

始業点検：使用する人が作業前（装着時）に毎回行ってください。

点検後地上でワークポジショニング用器具を装着し、体重をかけ、異常のないことを確認してください。

定期点検：使用する人もしくは管理者により 1 カ月ごとに行ってください。

異常時点検：作業中ワークポジショニング用器具に異常を感じたら直ちに作業を中止し、再点検を行ってください。

- ワークポジショニング用器具点検チェックリスト 日常の点検を励行してください。

廃棄基準に達しているものは新品と取替えてください。
(このチェックリストをコピーして点検時にご使用ください)

○：異常なし

×：異常あり

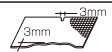
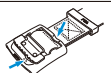
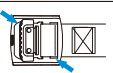
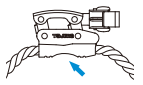
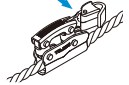
年 月 日

点検項目		廃棄基準	判定
胴ベルト・胴当てベルト	両 耳	摩耗・擦り切れ	3mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの
		切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの
	幅の中	摩耗・擦り切れ	3mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの
		切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの
	全 体	薬品・塗料	3mm 以上付着しているもの
		切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの
		焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの
		先端止めの変形	バックルに通らなくなったもの
		先端止めの脱落	先端止めが脱落してベルトがほつれているもの
		ねじれ・曲り	ベルトがねじれたままのものや、ねじれを解消してもベルトが曲がってよじれたままのもの。
	縫製部	縫糸	1カ所以上切断しているもの
	バックル	変形	締め具合が悪いもの リベットのガシメ部にガタ・変形があるもの
		摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの
			リベットのガシメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの ベルトの嘴合部が摩滅しているもの (正しく装着し、腹部に力を入れてベルトがゆるむもの)
		錆	全体に錆が発生しているもの
ばね		折損、脱落しているもの	
環類	変形	目視で確認できる変形のあるもの	
	摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
	錆	全体に錆が発生しているもの	

点検項目		廃棄基準	判定
ロープ	切り傷	1リード内に7ヤーン以上の切り傷があるもの	
	摩耗	摩耗して、棒状になったもの 赤芯入りロープの場合は赤芯が見えるもの	
	キンク	キンクまたは7ヤーン以上の異常な飛び出しや形くずれのあるもの	
	薬品・塗料	汚れ・変色・硬化しているもの	
	焼損・溶融	1リード内に7ヤーン以上焼損・溶融しているもの	
	シンプル	脱落しているもの	
	さつま編	抜けているもの	
	さつま編込部に 屈曲・しごき荷 重が加わった場 合の抜け現象	端末部の余長が20cm以下になっているもの (抜け現象が始まっている) 型崩れが進みストランドに乱れが生じているもの (抜け現象が進み危険な状態です だちに使用を中止してください)	
	ロープのさつま編込部の端末は溶断処理をしておりますが、長時間の使用によってバラけることがあります。この端末がバラける状況は強度上特に問題はありません		
	変形	形崩れ・著しい縮みのあるもの 使用開始から2年が経過しているもの	
フック	変形	外れ止め装置の開閉操作の悪いもの リベットのカシメ部にガタつきがあるもの	
	摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの リベットのカシメ部が2分の1以上摩滅しているもの	
	錆	全体に錆が発生しているもの	
	ばね	折損、脱落しているもの	
	より戻し	より戻しの回転部に0.8mm以上の隙間があるもの。	
伸縮調節器	変形	ロープの伸縮調節が困難なもの	
	摩滅・傷	深さ 1mm 以上の傷があるもの リベットの頭部が2分の1以上摩滅しているもの ロープとの嵌合部（押爪）が摩滅しているもの （正しく操作し、ロープの長さ調節できないもの）	
	錆	全体に錆が発生しているもの	
	ばね	折損または脱落してロープを把持できないもの	

1 項目でも廃棄基準に達しているものは使用しないでください。

ワークポジショニング器具の廃棄基準の一例

ベルト	摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融		摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融	
	両耳	 3mm以上の摩耗・切り傷があるもの	幅の中	 3mm以上の摩耗・切り傷があるもの
バックル	変形		摩滅・傷	
	 変形し、締め具合の悪いもの		 1mm以上の摩滅、傷があるもの	
環類	変形		摩滅・傷	
	 目視で変形が確認できるもの		 1mm以上の摩滅、傷があるもの	
三つ打ちロープ	切り傷		摩耗	
	 1リード内で7ヤーン以上切れているもの		 外装ヤーンおよび7ヤーン以上摩耗しているもの	
	薬品・塗料		損傷・溶融	
	 塗料が付着して硬化しているもの。また薬品が付着し、変色しているもの		 7ヤーン以上溶解があるもの	
	キンク		シンプル損傷	
	 キンクまたは7ヤーン以上の異常な飛び出しや形くずれのあるもの		 シンプルが変形しているものや脱落しているもの	
	さつま編			
フック	さつま編が1箇所でも抜けているもの		各ストランドに乱れが生じ、端末部の余長が引き込まれているもの	
				
	変形		摩滅・傷	
伸縮調節器	変形		摩滅・傷	
	 変形によりロープの伸縮調節ができないもの		 1mm以上の摩滅、傷があるもの	

9. 保管と手入れのしかた

●ワークポジショニング器具は次のような場所で保管してください。

- ①直射日光に当たらない所。
- ②風通しがよく、湿度のない所。
- ③火気・放熱体などが近くにない所。
- ④腐食性物質を置いていない所。
- ⑤塵埃の少ない所。
- ⑥子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないような場所。